



宮司プレス 百二十二号

彦島八幡宮 宮司 ニュース
発行者 彦島八幡宮
宮司 柴田 宜夫
発行 平成二十九年 三月二十一日

◇宮司の柴田です。三月のことを「弥生(やよい)」といいます。が、「草木、いやよい、生い茂る月」が、つまって「やよい」となったそうです。また、「春」という字の甲骨(こうこつ)文字は、桑の芽が伸びきった形をしているのでありまして、命がまっすぐに勢いよく張り伸びる季節なのです。境内の桜並木の桜の蕾(つぼみ)も、ようやく膨(ふく)らみはじめましたが、肌寒い日々も続いています。「三寒四温(さんかんしおん)」の毎日、折節(おりふし)の移ろいは、緩(ゆる)やか(か)なようです。「三寒四温」という言葉、皆さまご存知(ごぞんじ)ですか。平成二十一年二月発行の第三十三号に詳述(しょうじゆつ)していますが、今の季節(きせう)のことで、三日寒い日が続いても四日目ぐらいいから温(ぬ)かくなる、物事が少しづつ良(よ)くなっていく事の例えでもあります。私は、寒(ひや)を感じ、温(ぬ)を恩(おん)にかえた「三感四恩(さんかんしおん)」を生活(せいかつ)の目標(めいぷく)に掲(た)げています。「三感」は、感謝(かんしゃ)・感動(かんとく)・涵養(かんよう)であり、「四恩」は、神(かみ)の恩(おん)・親(おや)の恩(おん)・師(し)の恩(おん)・社会(せかい)の恩(おん)です。我々(われわれ)は目(め)に見えない大きな神様(かみさま)様

のお力(ちから)、大自然(おんじき)の恵(めぐみ)によつて生(な)かされて生きています。感謝(かんしゃ)の心(こころ)を忘れてはなりません。その当たり前の事(こと)を謙虚(けんこ)に感謝(かんしゃ)し感動(かんとく)をし、そしてその感動(かんとく)を感性(かんせい)として前向(まへむか)きに取り入れ、身につける、涵養(かんよう)、これが「三感」です。そして四(よ)つの恩(おん)に報(むか)える事が出来るように日々生活(せいかつ)をする、つまり神様(かみさま)・親(おや)・師匠(しせう)(人生(じんせい)の先輩(せんぱい)等(らう))・地域社会(ちいきせかい)につながつた生活(せいかつ)をする、これこそが、「三感四恩(さんかんしおん)」だと思(おも)うからです。◇ようやく、宮司(みやじ)プレス第百二十二号(だいひゃくにじゅうにごう)の発行(はつこう)です。毎月(毎月)一回(いちど)発行(はつこう)の初志貫徹(しよしかんてつ)が、遂行(すいこう)されていなければかりか、遅(おそ)れの累積(たまり)すら減(へ)らす事も叶(かな)いません。神社(じんじゃ)神道(しんどう)は、「朝(あ)に祈(いの)り夕(ゆふ)べに感謝(かんしゃ)」という敬(けい)神生活(けいじんせいかつ)を心掛(こころか)けることにより、「うまれかわり、よみがえり」、日々更新(か)されます。「日々是好日(ひびはこうじつ)」、毎日(まいにち)の穏(おだ)やか(か)な日々を感謝(かんしゃ)しつつ、明日(あした)の幸(さい)せを祈(いの)る日々、「日清日新(にっしんにっしん)」です。そして、特に大事(だいじ)なことが、その更新(か)された日々が、「累加(るいか)」されていく、かさなり加(か)えられていく営(いとな)みで、前向(まへむか)きに人生(じんせい)を楽(たの)しむという「日進(にっしん)」の生活(せいかつ)に

つながっていくのです。「日々更新累加(ひびはこうしんるいか)」の生活(せいかつ)は、「日清日新日進(にっしんにっしんにっしん)」の日々(ひび)なので、だからといって、宮司(みやじ)プレス発行(はつこう)の遅(おそ)れが、「累加(るいか)」されることが許(ゆる)されるわけではありません。猛省(もうせい)の日々(ひび)です。◇働き方改革(かみかたかいかく)が提唱(ていしょう)されています。仕事(しごと)の生産性(せいさんせい)向上(こうじやう)と効率化(こうりつちか)により、働き過ぎ(かみかみ)を是正(ぜいせい)して労働時間(らうどんじかん)の削減(さくげん)を図(とら)うという論議(ろんぎ)です。しかしながら、産業用機械(さんぎやうきがい)のみならず、パソコンや情報技術(じほうぎじゆつ)等の進化(しんか)によつて、人間の生産性(せいさんせい)は飛躍(ひえつ)的に高(たか)まったはず(はず)ですが、問題(もんだい)の解決(けっかい)には至(いた)っていないようです。機械(きがい)やシステム(システム)の進化(しんか)により、さらに生産性(せいさんせい)が向上(こうじやう)した社会(せかい)では、物(もの)の豊(とよ)かさ(かさ)より心(こころ)の豊(とよ)かさ(かさ)が一層(いちじやう)求められるようです。国民生活(こくみんせいかつ)に関する調査(きんさう)では、昭和(しやうわ)五十年(ごじゅうねん)には、物(もの)の豊(とよ)かさ(かさ)を重視(じゆうじ)する人が四十一パーセント(よんじゅういちぱーせんと)だったのに対して、心の豊(とよ)かさ(かさ)を重視(じゆうじ)する人は、三十七パーセント(さんじゅうしちぱーせんと)でした。ところが、二十五(じゅうご)年後(ごねんご)の平成(へいせい)十一年(じゅういちねん)には、心の豊(とよ)かさ(かさ)を重視(じゆうじ)する人が物(もの)を重視(じゆうじ)する人のパーセント(ぱーせんと)を上(あ)回り、昨(きの)年は、その差(さ)が倍以上(じゆうばいじやう)にひろがっています。「働き方改革(かみかたかいかく)」は、仕事(しごと)も生活(せいかつ)も含(こ)めて心の豊(とよ)かさ(かさ)が満(み)たされる「幸せ(しあわせ)づくり」のための、「生き方(いきかた)の改革(かいかく)」なのだ(な)そうです。労働時間(らうどんじかん)の削減(さくげん)や生産性(せいさんせい)の向上(こうじやう)だけでなく、余暇(よか)や趣味(しゆみ)、人(ひと)と人(ひと)とのつながり(つな)がりなど、人の生き方(いきかた)そのものが大切(たいせつ)になって

くる、それが、「生き方の改革」になるのです。

前述した「三感四恩」の生活は、「自然を大切に
にする、人と人のつながりを大事にする、前向
きに人生を楽しむ」という神社神道の三本柱そ
のものですし、まさに、「生き方の改革」では
ないでしょうか。 さて、「イノベーション」

とは、物事の進歩ではなく、「何が良いか」が、
変わることでそうで、自分のなかに、「どうし
てもこういうことがしたい」という強い思いが
ある人が起こすのだそうです。 相田みつをと
いう詩人は「幸せはいつも自分の心が決める」
という詩を残していらっしやいます。 何事も、

「雨奇晴好（うきせいこう）」、降るもよし晴れ
るもよしという、とらわれない心持（こころも
ち）で、「センス オブ ワンダー」、感性を研
ぎ澄まし、「三感四恩」の生活で、「日々是好日」、
穏やかな日々でありますように。

◇二月の祭典行事報告

▼月次祭 *二月一日、十五日

▼節分祭 *二月三日

▼建国祭 *二月十一日

◆彦島八幡宮 午前十時

◆下関市 午後二時十分

▼福浦稲荷神社初午祭 *二月十二日

▼祈年祭

◆彦島八幡宮 *二月十七日

◆六連島八幡宮 *二月二十五日

◆田の首八幡宮 *二月二十七日

▼横浜DeNAベイスターズ下関ファン集
いの会参拝 *二月十八日



▼朝粥会 *二月二十一日

◇二月の官司の行事会議等活動報告

▼八幡宮関係団体

◇維蘇志会節分準備作業 *二月二日

◇維蘇志会役員会 *二月十七日

◇神道会世話人会 *二月二十六日

▼山口県神社庁、同下関支部関係

◇建国青年の集い *二月四日

◇支部幹事会 *二月六日

◇市建国祭最終打合 *二月八日

◇神社庁役員会 *二月十二日

◇支部長事務局局長会議 *二月十三日

◇神宮大麻都市頒布向上計画対策委員会
*二月十三日

◇神社庁例祭 *二月十三日

◇巡回祭典後講話研修会
*二月二十七日(山陽小野田市、高泊神社)

◇山口県神社庁教化講師会
*二月二十七日



◇西ロータリークラブ
*二月十八日

◇インターシティミーティング
*二月十八日

◇地元迫町自治会活動
*二月十八日

◇防災図上訓練(DIG)に消防団員とし
て参加 *二月二十三日

▼西山小CS関係

◇西山小三年生、総合学習で来訪、神社に
ついて講話 *二月八日

▼講演活動

◇楽水会講演 *二月八日

◇宇賀神社祈年祭講演 *二月二十五日

▼教誨活動、美祢社会復帰促進センター
◇入所前指導(女子) *二月八日

▼その他

◇下関市消防団彦島分団第六部小型ポン
プ積載車配備祝賀会 *二月二十五日

◇その他

◇下関市消防団彦島分団第六部小型ポン
プ積載車配備祝賀会 *二月二十五日